

天皇皇后兩陛下は、本日(今日)を以て、大和畝傍山陵に御幸啓あらせられ、皇祖武千五百年祭を親修あらせらる。之れを正史に徴すれば、曾て一千年祭に於て、曾て武千 year 祭なし。今回の御親修は、之を日本より謂へば、固より古來未曾有の盛典にして、而して列國多し。雖も帝王の祭祀、武千五百年に繼續するもの、絶えて存するなし。之を世界的よりするも亦た未曾有の盛典たるを失はず。

惟ふに皇統連綿として萬世一系、敢て他の覬覦を容ざるもの、皇祖盛德無邊、其の民心に入る深きが爲めにして、其の勇武絶倫に在せしとは、申す迄もなく。而して其下に對して仁慈なる、自己の兵士を見ては「我子」と宣はせ玉ひ、國民を見ては「大御寶」と稱させ玉ふ。而して列聖相承け、其德澤の及ぶ所普天率土、遐邇なく、亦た親疎なし。皇祖東征、都を標原に奠め玉ふや、曾て皇軍に反抗せし敵將をも部下に收めて、牧民の任に就かしめ玉ふ。彼の上古に於て、屢次兵を此地に出させ玉ひたるが如き、親交國を外敵の襲來より擁護し、生民をして其堵に安んぜしめんこの聖意に出でたるものにして、日韓併合、亦た此の聖意に出でたるに外ならず。試みに十年前の朝鮮と今日の朝鮮とを對照せよ。人文の普及、産業の發達に付ては、暫く言はず。其民生が誅求貪汚の政癘を脱し、生産財產の安固を確保せられ、城腹墜壞、各々其生を樂み、其業に勵むを得るもの、即ち併合の實にて。即ち我が皇德の然らしむる所たらずんばあらず。古を思ひ今を察す、皇祖の德澤、山高水深、比するに足らず。吾人聖世に遭遇し、遙かに古今未曾有の盛典を拜するを得、感恩無量、禁ずる能はざるものあり。日人然り、鮮人亦た然るべし。吾人は日鮮人を代表して、茲に皇澤の更らに四邊に光此せんとを祈る。



皇室祭祀の規定により、神武天皇二千五百年の御式年祭を行はれ給ひ、興くも聖上陛下に於せられても、劍璽を奉じ、文武の官を奉ひ給ひて、御参拜あらせらる。申す迄もなく、御式年祭は、實に百年に唯一度行はせられ



鮮海驛道經過

鮮海驛道、遼東遼寧二省は實に第二番驛也。建國の基石なるを失はざる也。故に建國の基礎成るや、帝は先づ加世田港より北航し、秦北八代の海を越え、二角嶺より瑛嶺に入り、邪馬臺に駐蹕あらせられて、其處の兵を募り、即ち皇兄五濤命の率ひ給ふ資貲兵馬を、大帝の率ひ給ふ吾田の壯人軍を加へ、錢に急ぐ其の實行に着手せんとし給へり。而して大帝龍圖の日月地として、露土老翁の言に聞き給へり。

舟に乗して、時勢の波を乗得ずべ
 決したる譯にて右の第二發起人
 多々野郎加はりしも其計畫の大體

播磨屋を経て、明石河敵の要害
 無事突破し、船陸相觸んで、河
 國白眉津に著するや、長崎彦陣に
 を率ひて、墓圃の上陸を防ぎしを
 直に緊逼して、上陸遊ばされ、海
 で、草香園へ遁避し、又た長崎彦
 兵と戦ひ、五湖命は、敗の流矢を
 腰に受け給ふ。此處より更に兵を
 遣して、紀州に向はれたるが、命は
 に紀州進出にて死に給ひしより、

是時、邊は以訖とは異なるを以て、自然會
 社の豪本親及び工部司の位階等に遷更
 を屠り、工部を廢し、遂に努余世の兄
 内、破城を破滅したる後は、大倭風を望
 兵んで附けり。茲に於て武力的建國の
 時期は去り、之より政治的方面に移
 る、努余を根本と定め、良地を寛め
 て、説諭の傍ならん。標原を宮處と
 稱定し、此處に萬世一系の皇基を樹
 て、全く建國を終り給ひ、皇威赫々
 標原に永く盛饒たる宮處を仰いては
 土族に就てし其民等の眼光には、朝

日に難く金匱よりも、更に一層膨く
廣きたるべく、恩威並行はれた
る大様に、心服より結成したる、美
恵に外ならざる也。

大帝の建國創業は、世界史上に、其
の比を有る處に於て、洵に我帝
國の世界に誇るべき史實なりとす。

而して、此の光輝ある歴史を有する、
吾大和民族の光榮は、又た他各國
人の競ひ知るを得ざる幸福を有す。


今日大正二千五百年の、御式年祭
に遇ひ、吾人亦大白を擧げて、我
皇室の御繁榮と、我大日本帝國の前
進を祝福せしむべからざるなり。

奉 祝

を貼付したる郵局一
圓之紙が一千包に達す
を御慶びします

但し引換券は、一圓
をきん

空



神武天皇崇恭賦
聖德太子
原都揚武思建臨。雲何銷有紫氣凝。除
別本支臨大統。追風內外仰中興。櫻花
綴綠山川麗。松柏森森日月昇。千里經
綏無限域。百壽登茲傍勝陵。
成田 甲
遷去二五百年御陵松柏挺然。開
天位業絕中。治國皇業護社稷。垂
兆民中大孝。耀威萬古播聲。除光緒

式

換 引 袋



村新封成。應代藏歌詩一篇。

(題) 堅則謂松

成田 磐石

鳥雀當空引。藤華初發。祥雲萬
枝。餘寒根底。春色吾皇登極圖。
新刊

拙作樹生金葉無來者


評曰 融然、藹然、疎棟之中見性靈

(同) 上

松田 學鵬

片竹有此草。森嚴綠映黃。月夜
吟情何處寄。春風吹落滿庭芳。

年



評曰 詩氣過人 而愛客情
○過清風客懷 金雲先生案
紅葉黃花四顧秋 先生降詔舊居閑
米今我撥月骨 白銀曉凍寒雲樓
色帶大江鷗鷺客 當頭月番碧峯前
埃不動清風路 裁減虛區出偉人
評曰 精切不泛
○同上 次韻 成田 魯石

祭

目種品景

▲一等
▲二等
▲三等
▲四等
▲五等

山水通鑑卷之二十一
皇祖二千五百年祭
蘇安 撰城
致
評曰 簡潔醇樸，後晉殊有鑒酌之
風。一路歷歷，猶有黃花候主人。
評曰 簡潔醇樸，後晉殊有鑒酌之
風。一路歷歷，猶有黃花候主人。
評曰 簡潔醇樸，後晉殊有鑒酌之
風。一路歷歷，猶有黃花候主人。

大正四年四月

○ 野田 大塊
植を玉ひけり咲く數歸の山櫻

○ 寫眞說明
神武天皇御陵に行幸
啓めらせらるゝ天皇
皇后兩陛下

▲三代表煙愛用家

京城 東亞煙

幸運者は何

△引接

新
奇拔るな空袋引換

▲引換期間 京成龍山仁川三市内に限
▲引換区域 當分の間引換致します

奉
を御渡致します
但し引換券又は朝紙の封紙紙貼用のものに限

祝
空

式
引

年

祭
品

△引換場所

京城 東西

▼三代表煙愛用家の特權

印 刷 人 豊田政太郎
京城太平通一丁目

(172) 須藤南翠作
筒井年峰

木の實際が鬱鬱として来た。
「御中も恐れ多い事ながら、北品は、御公達の中に於いて、最も不肖の御方おさます。故右府公の重男を以て、國司家を監禁すれど、右府御他界の後は、御家を保たるゝさへ、其だ恵もなき御情勢、殊に御住持時態憂にして、將に將たる御器おざらね。近く誅せられた國司を

座禪し居れば猶も木の本の芽眼われ、善哉行人に木の本の芽暗るゝ。銀子も手のぬかりに、身堪長し木の本の芽風に送らるゝ、身堪長し見ゆべき、木の本の芽の丘つくる根根てさへ、身堪りけり。根根て、斯る様子の芽を模造するゝとくさ引つ越へ木の本の芽に、土にくさ樹根なし庭木の本の芽に、つんつん木の本の芽立つ、芽色よく風埃りゆく木の本の芽の、きく木の本の芽の、くさ木の本の芽の、

圖信仰の歌い (三)

木の本の芽 浮世樓

[illegible][illegible]

赤色水質子類の黄色染料に染す
市內樂園二百九拾一坪地を譲る

▲治田明フランシス教會下町前通
▲電話三九五番 荒川仁壽堂
▲配達人募集 希望者臨門新井部
都く未達め

京城附町 町出新部

有縁婦五十名募集
京城横井四二八九電三九一二

●古本買入 ▲朝報送金 京城本二
●電話八六五 森田文光堂書局

○京銀金明正黄金湯島日本建五郎
計開除にて空堀有官吏に適す万石
成備水道行實賃六圓電九八四五

▲學生著氏 ▲教科書期分の御不用の大
京城本町二丁目三五二之七ボヤ書房

守一今更々申込まれよ今全編と
刊行雜誌無題贈會 ●電三八七八
利本本町の四九 ●松井益榮堂

●古本木町外野村 買入誠賞御報参上
京城本町一丁目日活映画社 16
電二六三四番 野村書店

▼番外(匿名)一期会十五金銀器用

朝鮮諸官廳受講義
全部七冊金一圓九十錢資料十四錢
京城旭町二丁振替店林軒斯文學會

朝鮮駐在府新聞紙一文學會

▼電話ユヅル(但し京城)
御希望の御力便
御希望の御力便
龍山電話三四六(御來談を乞)

分析其鑛業事務切一

正誤 昨二日朝刊二面是實直
岸田出張所は原告欄内た
るに京地岸田出張所の
誤植に付正誤す。

酒煙草きりい

禁酒丸 禁煙液
さんな酒煙草のひても迷く心から
嫌ひになる御身成達せられ此書及
大澤博士なる**禁酒論**論進呈
其他名大市物南通二森田商店
本館本報コボトキ特選寄附包非違

満蒙處分論 定價金一圓
皇日本銀行代購部諸君御買命京城へ

京日案内

普通 一冊 金五圓(一冊)
果國、京城接連地に三千軒あり
寶知又は小作何れにも相対し新
旭町一井上津張所通二巻一

<p>生皮齒車 鐵板組金具 其他工業用諸品</p> 	<p>品質保證在販賣當</p>	<p>木町二丁目に花卉盆栽、種子の出張賣店あり 觀賞樹苗</p> <p>吉野櫻、八重櫻、一行院楓、立田楓 ニセアカシヤ、赤黒松、白柏模 京城植物園 東大門内一四〇番地 各種梅英、朝鮮橘、同模松、白桐、蘋果、梨、葡萄 寫玉伊吹、各種、其他園藝一振事業</p>	<p>日韓書籍房</p> <p>新報廣告</p> <p>安井著 陸海軍史論 定價八角 湯原著 女探訪 定價七角 加藤著 牛 定價六角 岡本著 葛原勾當日記 定價八角 兩編 小學國語辭典 定價拾圓 究會編 小學會編 定價六錢</p>	<p>婦人科 產科</p> <p>東京旭町壹丁目 院長 衣笠茂</p>	<p>優待</p> 
<p>朝鮮總代理店 鐵商白神洋行</p> <p>仁川本町四丁目</p> <p>定表取寄 送呈</p>	<p>京城植物園 東大門内一四〇番地 各種梅英、朝鮮橘、同模松、白桐、蘋果、梨、葡萄 寫玉伊吹、各種、其他園藝一振事業</p>	<p>中央婦人病院</p> <p>(電話三三四〇番)</p>	<p>本院</p>	<p>電發</p>	

[illegible]

二月 日
山田龜太郎
親族一同

電話一五六七番

旭町二丁目(京城府廳地)
株式 京城葬儀社
會社 二川原吉

會社 京城葬儀社
會社 二川原吉
會社 二川原吉
會社 二川原吉

電話九五七番

金泉町自動車發賣時間表
上 泉一 番二 番 下 一 番 一 番

金泉町自動車發賣時間表
上 泉一 番二 番 下 一 番 一 番

金泉町自動車發賣時間表
上 泉一 番二 番 下 一 番 一 番

金泉町自動車發賣時間表
上 泉一 番二 番 下 一 番 一 番

金泉町自動車發賣時間表
上 泉一 番二 番 下 一 番 一 番

金泉町自動車發賣時間表
上 泉一 番二 番 下 一 番 一 番

金泉町自動車發賣時間表
上 泉一 番二 番 下 一 番 一 番

金泉町自動車發賣時間表
上 泉一 番二 番 下 一 番 一 番

金人其子之惡を知ること
言を少し
(大學)

刺要ノ體儀に病氣の處候
劾効ナク今日病死至多
に付不取假三日午後一時
當地に於て假葬執行郷里大
阪に本葬相替る候條此段
諒告候也
京都府護江通

福壽洋行 主住

○ 尼崎汽船仁出帆
○ 許山木瀬船山下崎
○ 大吉利丸 三月 日 午後四時出帆
○ 神代丸 四月 日 午後四時出帆
○ 蛟龍丸 四月 日 午後四時出帆
○ 蝦代丸 五月 日 午後四時出帆
仁出帆船通二會
高杉 杉田 酒部

汽船釜山出帆廣告
○ 門司、神戶、大坂行
○ 立神丸 四月 日 午後五時出帆
○ 立神丸 四月 日 午後五時出帆

○ 立神丸 四月 日 午後五時出帆
○ 立神丸 四月 日 午後五時出帆

○ 立神丸 四月 日 午後五時出帆
○ 立神丸 四月 日 午後五時出帆

○ 立神丸 四月 日 午後五時出帆
○ 立神丸 四月 日 午後五時出帆

○ 立神丸 四月 日 午後五時出帆
○ 立神丸 四月 日 午後五時出帆

○ 立神丸 四月 日 午後五時出帆
○ 立神丸 四月 日 午後五時出帆